

梅田サテライト・オフィスがオープン

Satellite Office

新設の弁護士法人と連携し、新たなサービスを提供



●関西大学 梅田サテライト・オフィス (大阪市北区 梅田スクエアビルディング)

関西大学は11月、大阪市内における教育・研究活動およびキャリア支援にかかわる拠点として、交通至便な大阪市北区の梅田スクエアビルディングに、「関西大学 梅田サテライト・オフィス」を新設した。同オフィスには、広く一般の方を対象

に総合的な心理臨床サービスを提供する「関西大学心理臨床センター梅田カウンセリングルーム」と、在学生・卒業生への就職活動を支援する「関西大学キャリアセンター梅田オフィス」を設置。また、本学が開設を支援した「弁護士法人あしのは法律事務所」も隣接して設立される。

同事務所の代表弁護士は本学法科大学院の実務家教員であり、法科大学院との密接な連携のもと、法科大学院や法学部のより一層の充実に協力を得る予定。

それに先駆け10月24日、同オフィス13階大研修室セミナールームにて、池内啓三理事長、楠見晴重学長らによる記者発表が行われ、続いて、関係者対象の施設見学会も開催された。



●梅田サテライト・オフィスで行われた記者発表の様子

13F
 関西大学 梅田サテライト・オフィス
 Kansai University Meiji Satellite Office

14F
 関西大学 梅田サテライト・オフィス
 Kansai University Meiji Satellite Office

▲オフィス内観
 ◀(上) 13階 キャリアセンター梅田オフィス
 (下) 14階 心理臨床センター梅田カウンセリングルーム
 弁護士法人あしのは法律事務所

天六キャンパス クロージングイベントを開催

85年の歴史に思いを馳せて



●池内啓三理事長によるあいさつ

9月3日、関西大学は大阪市北区長柄西1丁目にあった天六キャンパス(旧称:天六学舎)の閉鎖に伴う記念イベント「クロージングイベント ありがとう天六学舎」を開催した。

1929年に開設した天六キャンパスでは、長らく夜間教育が行われ、多くの優れた人材を輩出してきた。勤労学生の減少などにより、1994年に夜間部は千里山キャンパスに移ったが、それまでの65年間で約4万7000人も学生が巣立っていった。



◀働きながら学ぶ学生を支えた天六学舎

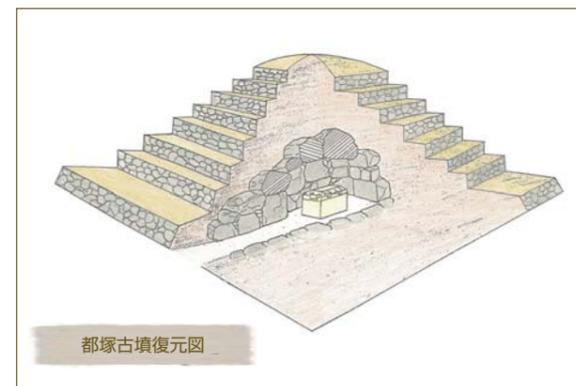
▶進退歌を斉唱



当日は、卒業生、地元関係者ら約350人が出席。式典では回顧ビデオで天六キャンパスのあゆみを振り返り、学歌を斉唱。その後、施設見学も行われ、歴史ある校舎との別れを惜しんだ。関西大学は2016年8月、より利便性の高い阪急梅田駅近くに、社会人教育の拠点となる梅田キャンパスを新設する予定だ。

●明日香村・関西大学による都塚古墳の発掘調査

国内で類例を見ないピラミッド形大型方墳と判明



8月13日、関西大学・米田文孝教授率いる文学部考古学研究室と明日香村教育委員会は、奈良県明日香村にある古墳時代後期(6世紀後半)の都塚古墳の外観が、国内で類例のない石を階段状に積み上げたピラミッド形と推定できることを発表した。

都塚古墳は全長約12m以上の横穴式石室を備え、長さ2.2mの家形石棺が納められていることは知られていたが、墳丘の詳しい形や規模は分かっていなかった。1967年の関西大学の調査

により方墳か円墳の可能性が指摘されており、今回の発掘調査で、墳丘部は拳大から人頭大の大きさからなる河原石を積み上げた階段状構造をもち、東西約41m、南北約42mの大型方墳であることが判明した。古代朝廷の実力者・蘇我馬子の墓とされる石舞台古墳に近いことに加えて、特異な構造や天皇陵にも迫る規模などから、馬子の父・蘇我稲目の墓である可能性も推測されている。



▲都塚古墳・墳丘西側の石積検出状況

16日には市民向けの現地説明会が行われ、早朝から4,000人を超える大勢の考古学・古代史ファンらが詰めかけて、ピラミッド状の形を決定づけた階段状の遺構などを熱心に見学した。

文部科学省・平成26年度の支援事業等に、本学の研究プロジェクト2件及び教育プログラム2件が採択

▼文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択された2つのプロジェクト

研究組織名	研究代表者(申請時)	研究プロジェクト名
データサイエンス研究センター	ソシオネットワーク戦略研究機構 商学部 教授 矢田勝俊	ビジネスにおけるデータサイエンスの深化を目指す総合的研究拠点の形成
経済実験センター	ソシオネットワーク戦略研究機構 社会学部 准教授 小川一仁	高齢者の意思決定支援制度を構築する開放型経済実験拠点の形成

▼文部科学省「大学教育再生加速プログラム」に採択されたプログラム

事業名称	事業期間	事業の概要
21世紀を生き抜く考動力 (Lifelong active learner) の育成	平成26年度～30年度	考動力育成に向けて教養教育と専門教育の連環を図るべく、交渉学・クリティカルシンキングをテーマとした科目開設やワークショップを実施。考動力を評価するための指標開発や、学修行動・到達度調査等による学修成果検証も行う。

▼文部科学省「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に採択されたプログラム

事業名称	事業期間	事業の概要
海外子会社の経営を担う人材を養成する大学院教育プログラム	平成26年度～28年度	産業界と連携し、ケーススタディ、事例分析等の実践的な教育プログラムを開発、実証し、海外子会社の経営を担う「考動力」あふれる高度人材を養成する。